

1 表の見方

(1) 調査対象事業

公営企業に係る令和5年度決算及び業務状況について調査したものである。

(2) 用語の定義

① 財務諸表

ア 項目区分は、地方公営企業法施行規則に定める勘定科目に準拠した。

イ 損益計算の用語の概念は次のとおりである。

(ア) 総収益＝営（医）業収益＋営（医）業外収益＋特別利益

(イ) 総費用＝営（医）業費用＋営（医）業外費用＋特別損失

(ウ) 経常収益＝営（医）業収益＋営（医）業外収益

(エ) 経常費用＝営（医）業費用＋営（医）業外費用

(オ) 純利益（又は純損失）＝総収益－総費用

ウ 資本的収支に関する調は、次の区分により集計を行ったものである。

(ア) 「翌年度へ繰り越される支出の財源充当額」は、当該年度の資本的収入額のうち、当該年度において事業が完了しないとの理由により当該収入額を充当すべき支出が、翌年度へ繰り越された場合の翌年度支出額に対する充当額である。

(イ) 「資本的収入額が資本的支出額に不足する額」の算出は、資本的収入額のうち「翌年度へ繰り越される支出の財源充当額」を控除した額が資本的支出に不足する場合の額のみを集計したものである。したがって、全事業についての単純な資本的収支差引の額とは一致しない。

(ウ) 「前年度同意等債で今年度収入分」は、令和4年度決算時において未払に計上された工事費に対応する企業債で未借入又は未発行の額である。

エ 費用構成表における「基本給」とは、給料、扶養手当及び地域手当の合計額である。

② 経営分析

各比率の算出方法及び計算の際用いた用語の区分は、次のとおりである。

各事業共通分

- 1) 固定資産構成比率 (%) = $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産} + \text{流動資産} + \text{繰延資産}} \times 100$
- 2) 固定負債構成比率 (%) = $\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
- 3) 自己資本構成比率 (%) = $\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
- 4) 固定資産対長期資本比率 (%) = $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$
- 5) 固定比率 (%) = $\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$
- 6) 流動比率 (%) = $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
- 7) 酸性試験比率 (%) (当座比率) = $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$
- 8) 現金比率 (%) = $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
- 9) 自己資本回転率 (回) = $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本}) / 2}$
(注) 自己資本 = 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益
- 10) 固定資産回転率 (回) = $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) / 2}$
- 11) 減価償却率 (%) = $\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{有形固定資産} + \text{無形固定資産} - \text{土地} - \text{建設仮勘定} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$
- 12) 流動資産回転率 (回) = $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) / 2}$
- 13) 未収金回転率 (回) = $\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首未収金} + \text{期末未収金}) / 2}$
- 14) 総資本利益率 (%) = $\frac{\text{当年度経常利益}}{(\text{期首総資本} + \text{期末総資本}) / 2} \times 100$
(注) 総資本 = 負債資本合計
- 15) 総収支比率 (%) = $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
- 16) 経常収支比率 (%) = $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$

- 17) 営業収支比率 (%) = $\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$
- 18) 利子負担率 (%) = $\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{建設改良等の財源に充てるための企業債・長期借入金} + \text{その他の企業債・長期借入金} + \text{一時借入金} + \text{リース債務}} \times 100$
- 19) 企業債元金償還金対減価償却額比率 (%) = $\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{当年度減価償却費}-\text{長期前受金戻入}} \times 100$
- 20) 企業債元金償還金対料金収入比率 (%) = $\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$
- 21) 企業債利息対料金収入比率 (%) = $\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$
- 22) 企業債元金償還金対料金収入比率 (%) = $\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$
- 23) 職員給与費対料金収入比率 (%) = $\frac{\text{職員給与費(特別損失のうちの職員給与費含む)}}{\text{料金収入}} \times 100$
- 24) 職員1人当たり営業収益(千円) = $\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$
- 25) 職員1人当たり有形固定資産(千円) = $\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$
- 26) 経常損失比率 (%) = $\frac{\text{経常損失}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$
- 27) 累積欠損金比率 (%) = $\frac{\text{累積欠損金}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$
- 28) 不良債務比率 (%) = $\frac{\text{(流動負債}-\text{流動負債のうち建設改良等の財源に充てるための企業債} \cdot \text{長期借入金}-\text{PFI法に基づく事業に係る建設事業費等のリース債務}) - \text{(流動資産}-\text{翌年度繰越財源})}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$

水道事業

- 1) 負荷率 (%) $= \frac{1 \text{ 日平均配水量}}{1 \text{ 日最大配水量}} \times 100$
- 2) 施設利用率 (%) $= \frac{1 \text{ 日平均配水量}}{1 \text{ 日配水能力}} \times 100$
- 3) 最大稼働率 (%) $= \frac{1 \text{ 日最大配水量}}{1 \text{ 日配水能力}} \times 100$
- 4) 配水管使用効率 (1 m 当たり m³) $= \frac{\text{年間総配水量}}{\text{導送配水管延長}}$
- 5) 固定資産使用効率 (1 万円 当たり m³) $= \frac{\text{年間総配水量}}{\text{有形固定資産}}$
- 6) 供給単価 (1 m³ 当たり 円) $= \frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$
- 7) 給水原価 (1 m³ 当たり 円) $= \frac{\text{費用合計} - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$
- 8) 職員 1 人 当たり 給水人口 (人) $= \frac{\text{現在給水人口}}{\text{損益勘定所属職員数}}$
- 9) 職員 1 人 当たり 有収水量 (千 m³) $= \frac{\text{年間総有収水量}}{\text{損益勘定所属職員数}}$
- 10) 有収率 (%) $= \frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$
- 11) 普及率 (%) $= \frac{\text{現在給水人口}}{\text{行政区域内現在人口}} \times 100$

病 院 事 業

1) 病床利用率 (%)		=	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
2) 1日平均患者数 (人)	入院	=	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{入院診療日数}}$
	外来	=	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{外来診療日数}}$
3) 外来入院患者比率 (%)		=	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$
4) 職員1人1日当たり患者数 (人)		=	$\frac{\text{年延入院外来患者数}}{\text{年延職員数}}$
	入院	=	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延職員数}}$
	外来	=	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延職員数}}$
5) 患者1人1日当たり診療収入 (円)		=	$\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延入院外来患者数}}$
	入院	=	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$
	外来	=	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$
6) 職員1人1日当たり診療収入 (円)		=	$\frac{\text{入院外来収益}}{\text{年延職員数}}$
7) 患者1人1日当たり薬品費 (円)		=	$\frac{\text{薬品費}}{\text{年延入院外来患者数}}$
	投薬	=	$\frac{\text{投薬薬品費}}{\text{年延入院外来患者数}}$
	注射	=	$\frac{\text{注射薬品費}}{\text{年延入院外来患者数}}$
8) 入院患者1人1日当たり給食材料費 (円)		=	$\frac{\text{患者用給食材料費}}{\text{年延入院患者数}}$
9) 投薬薬品使用効率 (%)		=	$\frac{\text{薬品収入 (投薬分)}}{\text{投薬用薬品払出原価}} \times 100$
10) 注射薬品使用効率 (%)		=	$\frac{\text{薬品収入 (注射分)}}{\text{注射用薬品払出原価}} \times 100$

- 11) 診療収入に対する割合
- 投薬注射収入 (%) = $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
- 検査収入 (%) = $\frac{\text{検査収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
- 放射線収入 (%) = $\frac{\text{放射線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$
- 12) 医業収益に対する医療材料費、職員給与費の割合
- 医療材料費 (%) = $\frac{\text{医療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$
- 職員給与費 (%) = $\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$
- 13) 検査の状況
- 患者100人当たり検査件数 = $\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$
- 患者100人当たり放射線件数 = $\frac{\text{年間放射線件数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$
- 検査技師1人当たり検査件数 = $\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年度末検査技師数}}$
- 検査技師1人当たり検査収入(千円) = $\frac{\text{検査収入}}{\text{年度末検査技師数}}$
- 放射線技師1人当たり放射線件数 = $\frac{\text{年間放射線件数}}{\text{年度末放射線技師数}}$
- 放射線技師1人当たり放射線収入(千円) = $\frac{\text{放射線収入}}{\text{年度末放射線技師数}}$
- 14) 室料差額 1人1日当たり徴収額(円) = 最高額～最低額
- 15) 病床100床当たり職員数(人) = $\frac{\text{年度末(各種)職員数}}{\text{年度末病床数}-\text{年度末感染症病床数}} \times 100$
- 16) 1床当たり償却資産 = $\frac{\text{償却資産(建物・器械)-減価償却累計額}}{\text{年度末病床数}}$